

2018年6月1日

プラズマ分光分析研究会会員の皆様へ

会長就任のご挨拶

平素はプラズマ分光研究会の活動に多大なるご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。私、2018年4月より東京大学・平田岳史先生の後任として本研究会会長を引き継ぎました、(国)産業技術総合研究所の野々瀬菜穂子と申します。ICP-MSにおける各種分光干渉の発生機構の解明に関する基盤的研究、および組成標準物質開発に関わる微量分析法の高度化・高精度化に関する応用研究に携わっております。

また今期は、副会長としてアジレント・テクノロジー株式会社代表取締役社長・合田豊治様、京都大学・宗林由樹先生をお迎えし、9社の維持会員、27社の賛助会員、28名の世話人、2名の顧問の皆さまのご協力のもと、東京工業大学・沖野晃俊先生の研究室を事務局(再任)として、研究会運営に当たっていく所存です。

本研究会は東京大学の故・不破敬一郎先生のお声掛けのもと1980年に発足し、途中5年間の休会を挟みましたが、足掛け34年間の活動を続けて参りました。その間、原子吸収スペクトル法、発光分光スペクトル法などの分析法の基盤技術の改良発展に学術面から寄与しつつ、環境、地学、食品、医学、工業材料、様々な分野の応用研究に対しても講演会・講習会を通じて普及活動を行って参りました。中でも1983年のICP-MSの登場は、プラズマ分光分析法の歴史におきましてもひとつのエポックメイキングとして、機器分析に携わる方々への影響は計り知れないものがあったことと思います。

研究会におきましては今後も、最新の研究成果を紹介していく研究講演会の開催(年平均3回)や、一泊二日の宿泊セミナー(メイン開催地・つくば)の他、Asia-Pacific Winter Conference on Plasma Spectrochemistry 国際学会への協力等、様々な形で会員の皆様のニーズに応えられるコンテンツを提供するべく精力的に活動を行っていくと共に、次代を担う学生および若手人材の育成にも力を注いで参りたいと思います。引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
野々瀬菜穂子